

## 謝 辞

本書の上梓にあたり、謝辞を述べさせていただきたい。まずは、早稲田大学法学学術院教授・水島朝穂先生にお礼を申し上げたい。憲法9条をめぐる厳しい政治の局面と、学説における「限定放棄説」の興隆にもかかわらず、水島先生が「憲法9条2項全面放棄説」の立場を依然として力強く堅持されていることから、どれほどの勇気を頂戴しているか知れない。そして、この思いは私一人にとどまらず、日本国憲法9条の非武装平和主義としての規範力に拘り続ける少なからぬ憲法研究者、市民の方々によって共有されるものでもある。

「現実に合わせて憲法規範を安易にいじる動き」が急速に進み、軍事的合理性を前面に押し出して「軍事的なるもの」が肥大化するという現実を前に、水島先生は、それを憲法規範の側に漸次的に引き戻すための「平和の憲法政策論」に取組まれてきた。私は本書で、それとは異なる射程を収めた研究に取り組むこととなったが、特殊日本的な歴史的文脈に立脚して「軍事的なるもの」を認めない憲法規範の意義に拘るという点において、先生と問題意識を共有することが出来たのではないかと考えている。これまでに頂いた学恩に少しでもお応えすることが出来るよう、今後も精進して参りたい。

本書の編集を担当して下さった、法律文化社・小西英央氏にもお礼を申し上げたい。本書の企画のため、京都で初めてお目にかかり、お連れ頂いた源光庵での「悟りの窓」と「迷いの窓」により切り取られた風景は、今でも脳裏に鮮明に残っている。編集過程でのご配慮に心より感謝申し上げます。

最後に、「親思う心にまさる親心」を、その一生をかけて私に示し続けてくれている母・明美に、心からの感謝を込めて、本書を捧げたい。

2019年2月

麻生多聞